

2022年度 環境経営レポート



2023年7月10日



仙北木工株式会社

目次

1. 環境経営方針	P1
2. 事業活動の内容	P2
3. 環境経営の基本方針とその具体的取組	P3
4. 環境目標と実績	
A)環境目標	P4
B)環境活動計画	P5・6
C)マテリアルフロー	P7
D)環境への負荷の自己チェック	
E)環境負荷要因	P8～12
5. 環境活動計画の内容と取組み結果の評価	P13
6. 次年度の取組み内容	P14
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P15
8. 代表者による全体評価と見直し結果	P16

環境経営方針

〈基本理念〉

当社は、お客さまの快適居住ニーズに合う住宅用部材を提供することにより社会に貢献しております。事業活動全般を通じ、地域社会との調和と環境保全が経営の重要課題であることを認識し、社員一人一人が自主的・積極的に環境負荷の低減に取り組みます。持続可能な社会が求められていることをチャンスと捉え、環境活動を通じてより良い選択をし、新たなニーズに対応していきます。

〈行動指針〉

当社の事業活動が環境に影響を与えていることを理解し、行動指針を次のように定めます

1. 製造工程における原材料の効率的使用により木材資源の有効利用をし、廃棄する木材の削減を図ります
2. 社内で発生する廃棄物等の適切な管理を行い、有効利用・リサイクルを推進し、廃棄物の削減を図ります
3. 事業活動全般での省エネルギー・二酸化炭素排出量削減を徹底します
4. 全社員が積極的にかかることのできるシステムを追求し、環境経営の継続的改善に取り組みます
5. 環境に関連した法令や会社が同意した要求事項を遵守し、さらに自主的な活動を行い、近隣とのよい関係を継続するように一層の環境保全に積極的に取り組みます。

作成日 2005年5月 6日
改定日 2020年3月31日

仙北木工株式会社

代表取締役社長 桜井勝徳

2) 事業活動の内容

1) 事業所名及び代表者名

仙北木工株式会社 代表取締役社長 桜井勝徳

2) 所在地

〒987-0511
宮城県登米市迫町佐沼字末広30-2

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 木村靖志
連絡先 TEL 0220-22-3056
FAX 0220-22-3830
mail senpoku-yk@giga.ocn.ne.jp

4) 事業内容

住宅用内装部材の加工・製造及び販売・ペレット製造

5) 事業規模

資本金 3,850万円
創業 1946年6月
全従業員 14名
工場延床面積 3,302平米
敷地面積 8,333平米
JAS認定工場
構造用製材・造作用製材
(JLIRA-B・12・01)
下地用製材
(JLIRA-B・12・12)

6) 対象の範囲 全社・全活動

(木材・木製品等の)加工、
製造及び販売)

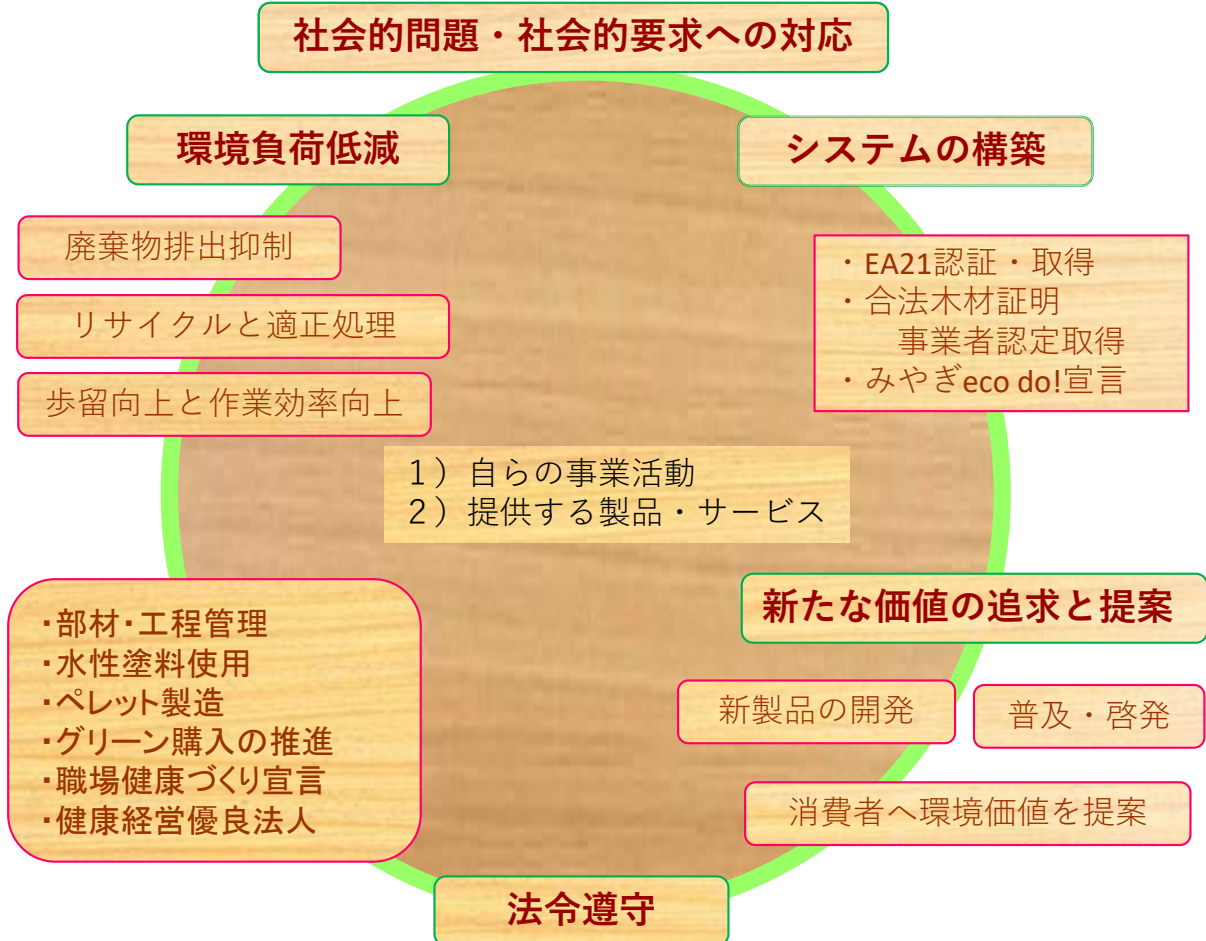
7) 環境活動レポートの)対象期間

2022年4月～2023年3月



3) 環境経営の基本方針と その具体的取組

当社における環境経営の基本方針と具体的な取り組み事項の概要を下図に示す。



近年における木材環境問題としての違法伐採撲滅、合法木材の積極的な利用対応として、当社はそれらを証明できる「事業者認定」を取得し、積極的な合法木材の購入・販売をしながら合法木材利用100%を目標としてきました。資源の有効利用という視点から見ると、森で生長した資源を捨てることなく最後まで全てを使い切り、持続可能な森林を維持するための行動もするべきであると考えます。その一環として、オガクズの畜産農家への販売、社内で焼却処分していた木くずにてペレットを製造・販売などを実施。木材廃棄物量ゼロを継続しています。

このような事実により、会社として森林資源の保全・有効利用に貢献していることは明白です。これは当社製品の付加価値を上げるためにも重要なことであるとともに、消費者がカーボンニュートラルのサイクル加わる価値を生み出します。今後も資源の有効利用を促進しながら消費者に新たな価値を提案して行く方針です。

4) 環境目標と実績

A) 環境目標

1) 環境目標の設定

・2018年度実績値をBMとし、2019年度以降の5年間の目標値を設定しています。


2022年度 環境活動目標

項目	単位	BM	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO2排出量削減	kg-CO2/億円	22,861	22,700	22,600	22,300	22,000	21,700
廃棄物排出量削減	kg/億円	989	987	985	980	970	960
水使用量の削減	m3	164	節水の徹底				
化学物質使用量削減			適正な管理				
木材資源の有効利用 (焼却量削減)	%	3.90	3.79	3.72	3.60	3.55	3.50
地域における環境保全			週1回の工場外清掃				

(BM 東北電力2018年度調整後排出係数0.528kg-co2/kwh)

- * CO2排出量・廃棄物排出量は生産高あたりとなります。
- * 総排水量の削減目標はこれ以上の削減が難しいため、目標値は定めず「節水の徹底」とする
- * 一般廃棄物量はこれ以上の削減が難しいため、目標値は産業廃棄物量のみを対象とする。
- * 一般廃棄物量の目標値は定めず、「削減の徹底」とする。
- * 化学物質使用量は仕様により決められていること、P R T R法対象物質はほぼ使用しないため、適正管理とする。
- * 焼却割合は木材購入量に対しての焼却量が占める割合


B) 環境活動計画

目標	環境活動計画項目	担当部署	責任者
 省エネ	電力使用量の削減	管理部	木村常務
	・デマンド値管理による効率的な節電 ・効率的な生産による余計な電力使用の廃止 ・残業時の部分空調・部分証明の実施 ・照明器具の定期的な清掃をする ・冷暖房基準を遵守する ・照明の点灯・消灯基準を遵守する		
	化石燃料使用量の削減	管理部	木村常務
	・フォークリフトのアイドリングストップを徹底する ・社用車使用時はアイドリングストップを推奨する ・暖房効率を上げ、冬場の灯油使用量を抑える		

エネルギー資源ごとのCO2排出量(単位:kg-CO2)

エネルギー資源	2018年度		2021年度	
	(BM)	割合	実績	割合
電力	56,753	79.6%	43,774	77.9%
灯油	6,056	8.5%	5,995	10.7%
LPG	132	0.2%	138	0.2%
軽油	4,763	6.7%	3,452	6.1%
ガソリン	3,637	5.1%	2,844	5.1%
CO2排出量合計	71,341	100.0%	56,203	100.0%
kg-CO2/億円	23,780		24,577	

(BM 東北電力2018年度調整後排出係数0.528kg-co2/kwh)

 廃棄物削減	産業廃棄物		
	取引先への梱包資材制限	管理部	木村常務
	・取引先からの梱包資材を制限 ・リサイクル処理の推進 ・入荷材の簡易梱包を推進		
	一般廃棄物		
	削減の徹底	総務部	小原
	・削減の徹底		

項目ごとの廃棄物排出量(単位:kg)

項目		2018年度		2021年度	
		(BM)	割合	実績	割合
一般廃棄物	可燃ごみ	267.7	8.22%	287.1	9.41%
	生ごみ	15.7	0.48%	9.3	0.30%
産業廃棄物	廃プラ	2,974.0	91.30%	2,754.0	90.28%
	汚泥	0	0.00%	0	0.00%
	木くず	0	0.00%	0	0.00%
廃棄物排出量合計		3,257.4	100.00%	3,050.4	100.00%

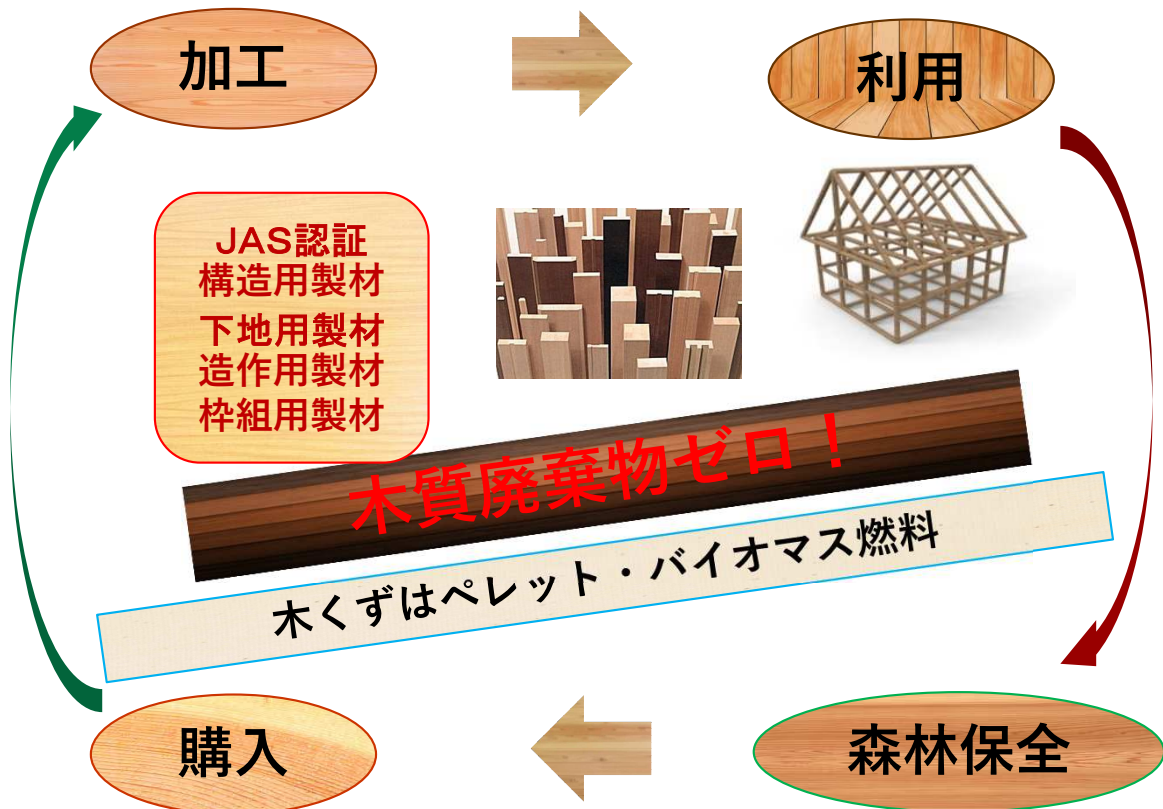


水使用量の削減	節水の徹底	総務部	小原
	・洗浄時のため洗い推進		
	・節水表示を掲示し、無駄遣いを防止		
化学物質使用量削減	SDSにおける適正な管理	管理部	木村常務
	・SDSにおける適正な管理		
木材資源の有効利用	歩留まり率の向上	管理部	木村常務
	・焼却炉による木くず焼却量を削減し、廃棄量を減らす。		
環境保全	週1回の社外清掃活動	管理部	木村常務
	・毎週1回の社外清掃活動(週初め)		



ペレット製造による資源の有効利用

森林を活かす取り組み



事業者認定書

2020年3月31日

仙北木工株式会社 殿

日本住宅パネル工業協同組合
 理事長 座間 愛知


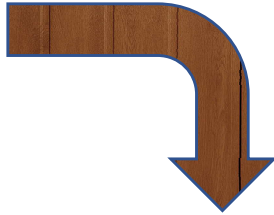
2020年3月2日付けで申請のありました合法性・持続可能性の証明に係る事業者認定申請について、当団体の事業者認定実施要領に基づき、下記のとおり認定します。



C) マテリアルフロー

インプット

エネルギー		
購入電力	84,238	kwh
ガソリン	1,116	リットル
灯油	2,326	リットル
軽油	1,378	リットル
原材料		
木材	926	m3
上水	140	m3

製造プロセス

生産
営業
事務
物流



和室用枠材

各種モーディング部材

押入部材



アウトプット

製品	環境負荷	
住宅部材	CO2排出量	56,525.71 kg-CO2
構造材	化学物質排出量	0.00 t
内装材	廃棄物等総排出量	4.18 t
塗装材	総排水量	140.00 m3
建築部材		

排水量は測定困難な為、上水と同じ



* 排出係数 0.528kg-CO2/kwh
(東北電力2018年度排出係数)

D)環境への負荷の自己チェック

インプット項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
① 総エネルギー投入量合計	MJ	1,192,082	1,019,934	1,162,894	999,159	1,006,548
内訳						
購入電力	MJ	977,023	811,879	932,543	814,956	828,060
化石燃料	MJ	215,059	208,055	230,351	184,203	178,488
② 総物質投入量合計	t	805	638	586	555	509
内訳						
資源投入量(木材)	t	805	638	586	555	509
③ 水資源投入量合計	m ³	164	145	145	136	140
内訳						
上水	m ³	164	145	145	136	140

*資源投入量は木材のみ

アウトプット項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
④ 温室効果ガス排出量	Kg-CO ₂	71,334	57,641	65,640	56,203	56,526
内訳						
二酸化炭素	Kg-CO ₂	71,334	54,641	65,640	56,203	56,526
⑤ 化学物質排出量・移動量合計	t	0.000	0.002	0.002	0.001	0.000
内訳						
塗料溶剤	t	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
防腐剤	t	0.000	0.002	0.002	0.001	0.000
⑦ 廃棄物等総排出量合計	t	3.260	4.150	2.700	3.050	4.179
内訳						
再生利用	t					
単純焼却	t	3.260	4.150	2.700	3.050	4.179
⑨ 総排水量合計	m ³	164	145	145	136	140
内訳						
公共用水域	m ³	164	145	145	136	140

*排出係数

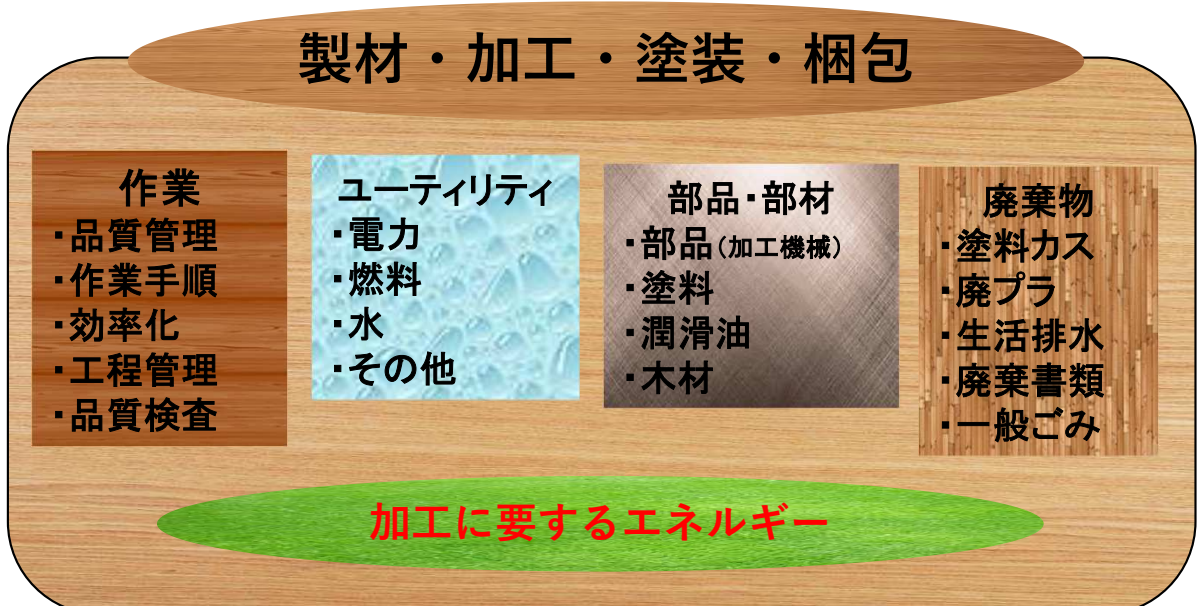
2017～2018年度 0.571kg-CO₂/kwh (東北電力2014年度調整前排出係数)

2019～2021年度 0.528kg-CO₂/kwh (東北電力2018年度調整後排出係数)

E) 環境負荷要因



製材・加工・塗装・梱包



F) 環境活動の実績と取組

CO2排出量



*排出係数 0.528kg-CO2/kwh
(東北電力2018年度排出係数)

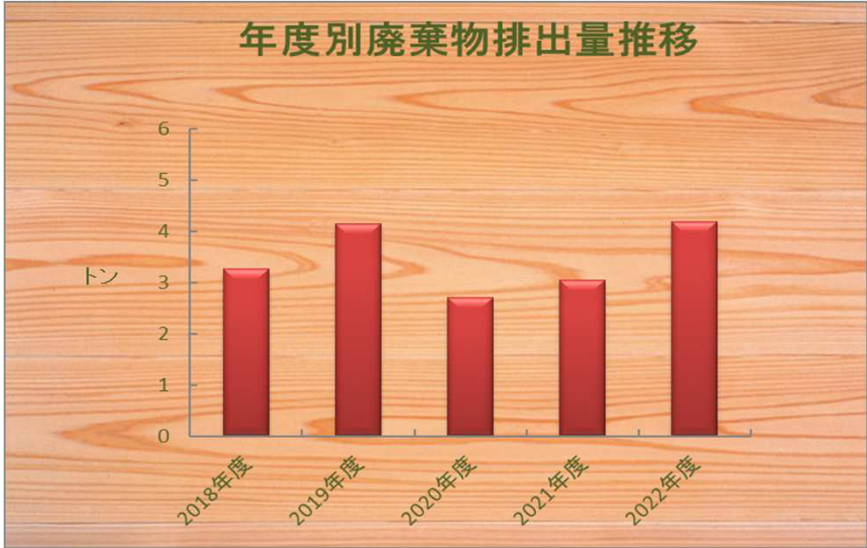
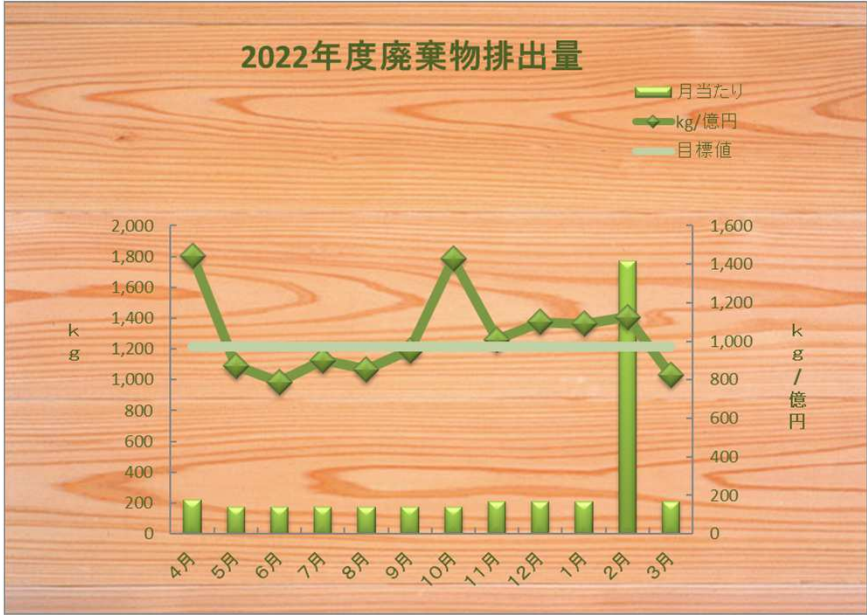
活動開始からCO2排出削減量

2002年度
 年間排出量 138,966 (kg-CO2)
 対生産高指数 1.00 (排出係数 0.378kg-CO2/kwh)



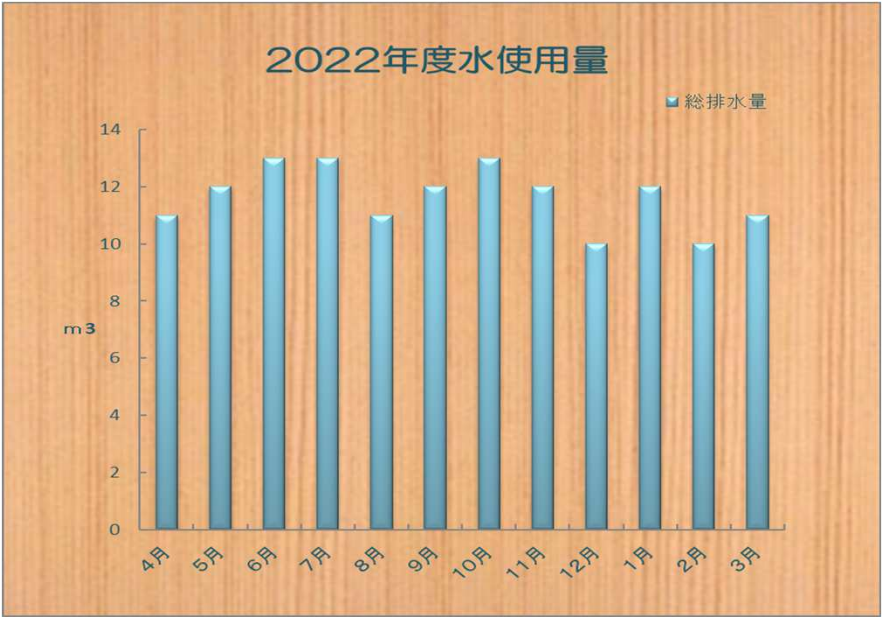
2022年度
 年間排出量 56,526 (kg-CO2)
 対生産高指数 0.76 (排出係数 0.528kg-CO2/kwh)

廃棄物排出量



今年度は、溜めていた塗料カスを処理したために突出して排出量が多い月があり、総処理量も多くなった。

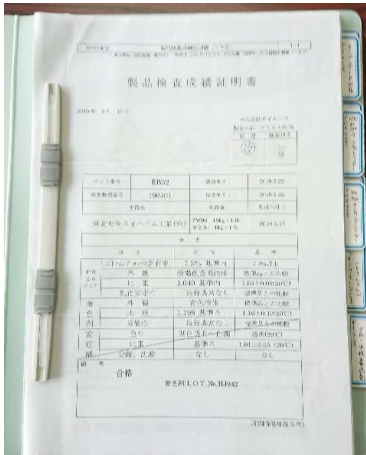
水使用量



生産活動における水の使用がほとんどなく、ほぼ平準化していることから、普段からの節水に対する意識が結果として現れている。

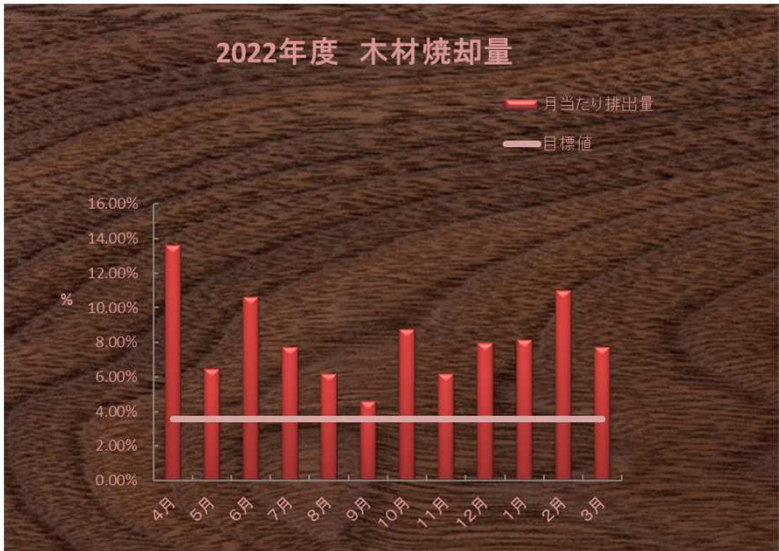


化学物質使用量削減



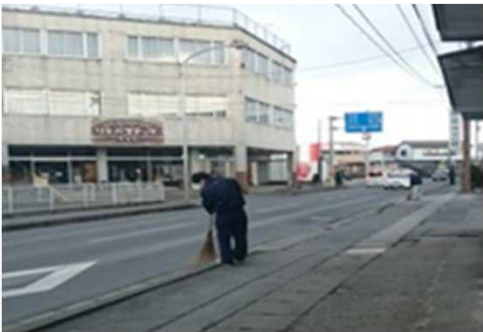
SDSによる適正な管理

木材資源の有効利用



昨年同様に集成材の利用が多い月はペレット製造にまわせずに焼却が増えている。

環境保全



週1度の社外清掃の様子

5) 環境活動計画の内容と 取組結果の評価

省エネ	電力使用量の削減	評価	目標
	・デマンド値管理による効率的な節電	○	2022 年度目標 22,000 kg-co2/億円
	・効率的な生産による余計な電力使用の廃止	△	
	・残業時の部分空調・部分証明の実施	○	
	・照明器具の定期的な清掃をする	○	
	・冷暖房基準を遵守する	○	2022 年度実績
	・照明の点灯・消灯基準を遵守する	○	
	化石燃料使用量の削減		24,452 kg-co2/億円
・フォークリフトのアイドリングストップを徹底する	○	目標達成率 90%	
・社用車使用時はアイドリングストップを推奨する	○		
・暖房効率を上げ、冬場の灯油使用量を抑える	○		
評価	電気使用量が増加したことでCO2排出量も対前年比で微増している。 生産高低下も未達に影響していると考えられる。		

廃棄物 量削減	産業廃棄物	評価	目標
	・取引先からの梱包資材を制限	△	2022 年度目標
	・リサイクル処理の推進	○	970 kg/億円
	・入荷材の簡易梱包を推進	○	2022 年度実績
	一般廃棄物		1677 kg/億円
削減の徹底	○	目標達成率 58%	
評価	数年分の塗料カスを廃棄したため、目標は大幅に未達になった。 廃プラのみだと目標値に近い廃棄量となるので、活動の効果は出ている。		

水使用量 の削減	節水の徹底	評価	目標
	・洗浄時のため洗い推進	○	2022 年度目標
	・節水表示を掲示し、無駄遣いを防止	○	節水の徹底
評価	昨年度とほぼ変わらない使用量である。 節水の徹底がされている。		

化学物質 使用量削減	SDSにおける適正な管理	評価	目標
	・SDSにおける適正な管理	○	2022 年度目標
			SDSにおける適正な管理
評価	仕様で指定されているもの以外は水性塗料など環境配慮されたものを使用している。 SDSを入手して適正な管理が行われている。		

木材資源 の有効利用	歩留まり率の向上	評価	目標
	・焼却炉による木くず焼却量を削減し、 廃棄量を減らす。	△	2022 年度目標
			3.55 %
	評価	2020年度実績	
集成材の割合が多く、ペレット製造が出来ないため、 目標値を大きく下回った。		7.85 %	目標達成率 45%

環境 保全	週1回の社外清掃活動	評価	目標
	・毎週1回の社外清掃活動(週初め)	○	2022 年度目標
			毎週1回の社外清掃活動
評価	毎週、週初めに清掃を行えている。		

6) 次年度の取り組み内容

2023年度環境計画

目標	環境活動計画項目	担当部署	責任者	
省エネ	電力使用量の削減	管理部	木村常務	
	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド値管理による効率的な節電 ・効率的な生産による余計な電力使用の廃止 ・残業時の部分空調・部分証明の実施 ・照明器具の定期的な清掃をする ・冷暖房基準を遵守する ・照明の点灯・消灯基準を遵守する 			
	化石燃料使用量の削減	管理部	木村常務	
	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフトのアイドリングストップを徹底する ・社用車使用時はアイドリングストップを推奨する ・暖房効率を上げ、冬場の灯油使用量を抑える 			
	廃棄物量削減	産業廃棄物		
		取引先への梱包資材制限	管理部	木村常務
		<ul style="list-style-type: none"> ・取引先からの梱包資材を制限 ・リサイクル処理の推進 ・入荷材の簡易梱包を推進 		
		一般廃棄物		
		削減の徹底	総務部	小原
	水使用量の削減	節水の徹底		
<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄時のため洗い推進 ・節水表示を掲示し、無駄遣いを防止 				
削減の徹底		総務部	小原	
化学物質使用量削減	SDSにおける適正な管理	管理部	木村常務	
	SDSにおける適正な管理			
木材資源の有効利用	歩留まり率の向上	管理部	木村常務	
	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却炉による木くず焼却量を削減し、ペレット製造量を増やす 			
環境保全	週1回の社外清掃活動	管理部	木村常務	
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回の社外清掃活動(週初め) 			

持続可能な社会の構築への貢献

全社員が環境活動・普段の生活における目標を掲げ、それをSDGsに当てはめて地域貢献や環境活動の和を広げ、身近に感じるように工夫をしていきます。

7) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1)適用となる主な関連法規

No.	区分	法律の名称	主な要求事項	対象設備・物質	管理部門
1	振動・騒音	騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 届出施設の設置、変更、廃止などの届出 (行政による敷地境界線における騒音測定) 	木加工機 空気送風機 空気圧縮機	管理部
		振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 届出施設の設置、変更、廃止などの届出 (行政による敷地境界線における振動測定) 	空気圧縮機	管理部
		宮城県公害防止条例	<ul style="list-style-type: none"> 届出施設の設置、変更、廃止などの届出 	助燃バーナー	管理部
2	産業廃棄物	廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処理の委託にする契約 管理表（マニフェスト）の交付・回収 マニフェストの報告 	廃プラスチック・灰 木クズなど	管理部
		廃棄物の処理の適正化に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> 委託先の確認・記録 	廃プラスチック・灰 木クズなど	管理部
3	化学物質	ダイオキシン類特別措置法	<ul style="list-style-type: none"> 届出施設の設置、変更、廃止などの届出 年一回以上の自主測定・届出 	ダイオキシン類	管理部
4	浄化槽	浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 届出施設の設置、変更、廃止などの届出 年1回の水質検査・清掃 	浄化槽	総務課
5	危険物	消防法	<ul style="list-style-type: none"> 危険物保安監督者の選任 保管施設の設置・危険物種類や管理者の表示 	塗料	管理部

(2)環境関連法規への違反、訴訟の有無

関連法規への違反はありません。
 なお、関連当局よりの違反等の指摘・訴訟等も
 過去5年間ありません。

8) 代表者による全体評価と見直し結果

1) CO2排出量削減

目標は未達だが、昨年度から6000kg-co2以下をキープ出来ており、過去最低だった昨年よりも微増で抑えていることは評価できる。

2) 廃棄物量削減

塗料カスの廃棄があり、目標値を大きく下回っているが、廃プラのみであれば排出量を抑えられているので、引き続き、廃プラ処理量の削減を重点的に活動すること。

3) 総排水量削減

活動を始めてから2番目に少ない使用量であり、毎月の使用量も10~13m3の狭い範囲でも変動で抑えられている。引き続き、突出した月が出ないように常に節水を心がけて活動して欲しい。

代表者	桜井 勝徳 2023年4月7日	記入	代表者	
			<input type="checkbox"/>	代表者
			環境管理責任者	
見直し 関連情報	項目		確認【必要に応じて評価・コメント記載】	
	1	環境目標及び目標達成状況	■	特になし
	2	環境活動計画及び取り組み実施	■	特になし
	3	環境関連法要求一覧及び遵守状況	■	特になし
	4	外部コミュニケーション・対応記録	■	特になし
	5	問題点の是正・予防処置の実施	■	特になし
	6	取引先、業界、関係行政機関その他の外動向	■	特になし
7	その他()			

代表者による 全体評価・ 見直し 指示	全体の評価・コメント (環境経営システムの有効性、 環境への取組の適切性等)		一部の目標で未達が続いているが、2024年度の中期計画を立てる時に事業の将来的な計画も含めて、見直しをおこない、適切に目標設定をすること。	
	見直し項目	変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等	
1	環境方針	無		
2	環境目標	無		
		無		
		無		
3	環境活動計画・取組	無		
4	環境に関する組織	無		
5	その他のシステム要求	無		
6	その他(外部への対応)	無		